



兵庫教育大学の 子ども・子育て支援の 先導的取組

「子ども・子育て支援新制度」が平成27年4月に本格施行されました。これは、すべての子どもと子育て家庭を対象に、幼児教育・保育と、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進する新しい仕組みです。わが国の幼児教育や保育、子育て支援の量的・質的充実を図る上でエポックメイキングな制度改革といえますが、国立大学はその実施者とされておりません。

元来、教員養成系の国立大学には幼児教育を行う附属幼稚園が設置されています。今回の子ども・子育て支援新制度の創設によって、就学前の子どもたちの育ちと学びは、幼保一体化(認定子ども園増設)や子育て支援を包含する総合的・体系的仕組みの中で行われることとなりました。就学前の子どもたちの育ちと学びを研究し、また育ちと学びを支援する専門職を養成することを任務とする大学は、その研究と教育の範囲をこれらすべてに広げるべきです。新制度の対象とされていないからといってその機能を幼児教育(幼稚園)に留めておくことでは、新制度のもとでのわが国の就学前の子どもたちの教育・保育や子育て支援に対応できないと考えるべきです。

兵庫教育大学はこのような考えのもと、教師教育の先導的モデルの構築をミッションとしていることもあり、文科省の特別経費(研究プロジェクト)を受けて、本号の教育最前線に紹介のような研究と実践を組織的に推進しています。就学前教育専門職養成を目的とした教育課程と研修プログラムの開発、子育て支援ルーム「GENKI」における実践研究などの成果をもとに、新制度における本学の存在意義を高めるべく、今後の展開を次のように考えています。

大学院において就学前教育専門職の養成を始めるとともに、地域において研修プログラムを実施します。「GENKI」において培われた保育や子育て支援の機能を、附属幼稚園の幼児教育と統合・融合させて認定こども園の設立を目指します。また、就学前に留まらず、学童保育(放課後児童クラブ)についても、施設を更新し、対象児童を広げることで現在の取組を拡充します。これを進めるためには、地元自治体の理解と協力が不可欠であり、相互の支援や役割分担の仕組みをつくらなければなりません。

こうした先導的な、現在の研究とこれからの取組は、教師教育の全国拠点としての本学のミッション遂行の重要な一環となります。また、地域の子どもや家庭を対象とした本学の幼児教育・保育と子育て支援は、研究にもとづく専門的知見によるものであり、公私施設の提供するものとは異なることから、国立大学として格段の地域貢献の役割を果たすことになるといえるでしょう。

かじさつや
学長 加治佐哲也